

香る庭を眺めながら 14

シャクナゲ

ハーブ研究家 桐原春子さん

庭に何本かのシャクナゲを植えています。花がかたまりになって咲きますので、その鮮やかないろどりに、見るたびに元気をもらいます。

圧倒させられるほどの迫力のシャクナゲの姿に、それまで日本のシャクナゲ・ファンだった私のイメージが覆されたのは、イギリスの旅のここでした。

大庭園には必ず森のようなシャクナゲの植え込みがあり、5月半ばを過ぎるとそれは花の山と化するのです。

なかでも湖水地方やウエールズの庭園のシャクナゲの様子には心惹かれました。人の力で作りあげたものなのに、1000年を過ぎて自然そのものになっているのです。

特にウエールズのポドナント・ガーデンの様子は見事で、その中の一本の木、5メートルほどの大木が純白の花を木の全面に咲かせている様子には一目惚れしてしまいました。清白いの美しさには格別のものがありました。

昨年の6月はカナダのバンクーバーにあるバ



姪の結婚披露パーティーのために庭のシャクナゲを中心に、花嫁を幸せにするサムシングブルーとして、ローズマリーなども使って作ったブーケ

ンドウーセン・ガーデンを訪ねました。日本では終わっていた白のシャクナゲが見事で、その美しさを再認識しました。

ところで私の庭には小さいながらホワイト・ガーデンを造っています。その入口のツゲの木に虫が入ってしまった、長年何とかがんばったのですが、今年、いよいよ別れる時がきてしまいました。その後には植

えるものとは考えた時、白のシャクナゲが突然思い浮かびました。そのアイディアに思わず手を打ってしまったくらいでしたが、考えてみたら心の中の白シャクナゲに対する思いのキャップが溢れるくらいになっていたのでしょうか。

嬉しいことにそれを夫が誕生日にプレゼントしてくれるというので、二重の喜びになりました。

先日ぎつしり蓄を持つ「マダムマツソン」という苗木を選び、植木屋さんに植えてもらいました。ツゲには手を合わせて今まで楽しませていただいたことを感謝しました。

そして今、そのシャクナゲを眺めるのが私の毎日の楽しみです。



きりはらはるこ
長野県松本市生まれ、松戸市在住。英国王立園芸協会会員、英国ハーブ協会終身会員。現在、読売・日本テレビ文化センター京葉などで「ハーブのある楽しい暮らし」の講師を担当。著書に「とっておきの英国庭園」(千早書房)など多数。
<http://www.geocities.jp/haru87herb/>